

# かみす

Pick up

折込 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

まちの魅力再発見



特集

おうちで  
楽しむ

# 港公園

身近な存在。  
その横顔は――



みんなはのぼったことあるかな？港公園展望塔は、40年前に公園のシンボルとして誕生したんだって。みんなの身近な存在、港公園の魅力や、こぼれ話を紹介するよ。



カミスココくんが  
動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし  
表紙にスマートフォンを  
かざしてください。  
詳細は10ページ

特集

おうちで  
楽しむ

# 港公園

身近な存在。その横顔は――

港公園記念碑



鹿島開発を紹介する展示室



皆さんは何回、港公園に行ったことがありますか？ 身近な存在でありながら、なぜ工業地帯の真ん中に公園ができたのか、どんな楽しみ方があるのか、よく知られていないことがたくさんあるはず。今回は、家にいながら港公園の魅力を楽しんでください。

※本特集の取材は3月に行ないました

## 鹿島開発を記念して誕生

港公園は鹿島臨海工業地帯のほぼ中央、鹿島港・中央航路の突き当たりにあります。ここはかつて砂丘が広がり、世紀の大事業「鹿島開発」の舞台となった歴史的な場所です。

昭和44年に世界最大級の掘込式港湾である鹿島港が開港。港を核として、鹿島臨海工業地帯が造成されました。その鹿島開発を記念して茨城県によって造られたのが港公園です。昭和50年2月に約7・5ヘクタールの公園が完成し、5年後の昭和55年8月に高さ52メートルの展望塔が竣工しました。

実は、それより前に造られた展望台があることをご存知ですか？

一つは東京電力の集合煙突の展望台（高さ180メートル）で、残念ながら一般の人が自由に見学することはできません。もう一つは、住友金属（当時）の構内に昭和42年3月に建てられた展望台（高さ11メートル）ですが、工場建設に伴い取り壊されました。

そのため港公園の展望塔ができたことで、ようやく誰もが気軽に鹿島港と大工場群を一望できるよう



竣工当時の展望塔(昭和55年)



鹿島港内を巡るユーリカ号

港公園わくわく体験フェア



ココは鹿島港Y字型航路の分岐点



ハミスココくんグッズが手に入る

になったので、完成時には、「鹿島臨海工業地帯のシンボルとなるマリン・タワー」「新しい観光名所が誕生」と大きな注目を集め、地元は大いに盛り上がったといえます。それ以来、港公園は多くの皆さんに親しまれてきました。

### カミスココくんが公園を探検!

新型コロナウイルス感染症の影響や工事のため、港公園は展望塔など屋内施設がお休みとなっています(5月21日現在)。そこで今回は、皆さんに代わってカミスココくんが港公園を探検します。

市街地から工業団地へ入り、大型トラックとすれ違いながら進んでいくと、港公園に到着。レンガ色に舗装された広場に、鮮やかに映える緑の木々。南国の樹木であるソテツやカナリーヤシなど、数多くの樹木が植えられ、リゾート感漂う別世界です。

入口の記念碑には、「人間性の勝利を目指しつつ、地域の人々ととも



誕生当時は噴水があった



**カメラ カミスココくと写真を撮ろう!**  
ARアプリをダウンロードし、この写真にスマートフォンをかざしてね(詳細は10ページ)

何が見えるかな?



に世界に門戸を開いた証しとして、これを設ける』という元茨城県知事 岩上二郎の言葉が刻まれ、鹿島開発の偉業を再認識できます。

広場の両側には芝生広場が広がり、林をぬうように園路が整備されています。ここを訪れた皆さんがどのようになっているのか、港公園管理事務所の柴田清光さんに聞きました。

「小さなお子さんを連れて遊びに来るご家族が多く、ピクニックシートを広げてお弁当を食べたりしています。ウォーキングやジョギング、犬の散歩に来る方もよく見掛けますね。サクラ、ツツジ、アジサイ、フジ、ツバキなど四季折々の花が咲き、一年中楽しめますよ」

園内には東屋やベンチがあり、緑に包まれてのんびりとくつろぐことができます。



柴田さん

**いざ展望台へ!**

次はいよいよ展望塔へ。言わずと知れた港公園のシンボルです。空に向かって伸びる塔を見上げながら、宇宙船、聖火トーチ、それともキノコに似ているかな?とあれこれ推理。

正解は、県花・バラをモチーフにしたデザインだそうです。

展望塔は丸い池の中に建っており、管理棟を通って入場します。展望台までのルートは2つ。エレベーターに乗れば約30秒、階段でのぼると210段。階段に挑戦する人はいるのか、柴田さんに聞いてみました。

「結構多いです。片道はエレベーターで、片道だけ階段にしたり。小学生には階段が人気ですね。また、運動がてら階段を何往復もされる方もいます」

階段とエレベーター、どちらを選ぶのかみんなで相談するのも面白そうです。

**360度の大パノラマを満喫**

港公園で一番の見どころは、なんといっても展望台からの眺め。眼下には地図で見慣れたY字型航路、そして目の前に広がる鹿島灘、遠く太平洋の水平線まで見渡すことができます。鹿島港の南側には石油化学コンビナート、北側には製鉄所と飼料コンビナートがあり、目に入る全てが圧巻のスケールです。

さらに、展望室から外に出て階段をのぼり、展望塔のてっぺんにあるデッキに立てるのが大きな魅力。文字通り360度の大パノラマを満喫することができます。

毎日この景色を見ている柴田さんですが、見飽きることはない素晴らしい景色だと絶賛します。「鹿島臨海工業地帯の工場群も、鹿島港を行き交う巨大タンカーも壮観の一言。巨大タンカーがタグボートに引かれて方向転換をする時は、中央航路が半分くらいふさがれるようで迫力があります。また、天気の良い日は富士山や筑波山が見えます。特に冬場、夕焼け空に浮かび上がる富士山は見事です」

ちなみに強風や雨天の日は、展望塔にはのぼれないため、入場前に確認を。展望塔を下りたら、管理棟のロビーで一休み。大きなガラス窓のすぐ向こうが鹿島港です。展示室では



鹿島アトラーズ巨大メモリアルブック(上)、港公園わくわく体験フェア(下)



幻想的な美しさの展望塔ライトアップ(上)、港公園は工場夜景の人気スポット(中)、工場群の向こうから昇る初日の出は展望台ならではの絶景(下)

鹿島開発に関する展示のほか、鹿島アントラーズ巨大メモリアルブックを発見。スター選手の若かりし頃の写真が満載で、サッカーファンにはたまらない一冊です。

## にぎわいあふれる一日

ここからは、港公園をさらに楽しむための耳寄り情報をご紹介します。一年で最もにぎわうのが例年5月に開催される「港公園わくわく体験フェア」(いばらき都市緑化フェスティバル)です。今年も新型コロナウイルスの影響で開催できませんでしたが、毎年多くの人が訪れ、多彩な体験イベントを楽しみます。

## 展望塔3つの楽しみ

展望塔のさらなるおすすめが3つ

あります。1つ目はライトアップ。12月から1月初頭にかけて、日没から午後9時ごろまで実施されます。夜空に浮かび上がる展望塔は、幻想的な美しさ。工場夜景が一段と華やかにになります。

2つ目が工場夜景。閉館は午後5時ですが、日没が早い冬の一時期的み、短時間ですが展望台から工場夜景を眺めることができます。カメラを片手に訪れるファンが多いとのこと。地上52メートルから見下ろす工場夜景は、港公園の最大の特徴と言えるでしょう。

3つ目が初日の出。毎年1月1日は早朝6時に展望塔を開き、先着30人限定で展望台から初日の出を拝むことができます。水平線から昇るのではなく、石油タンク群から現れる

初日の出。ほかでは見ることのできない、港公園だけの特別な眺めです。**遊覧船ユーリカ号で鹿島港を一周**

港公園の

すぐ隣には、遊覧船乗り場があります。鹿島港内を約45分で一周するユーリカ号。船名は、神戸市の姉妹都市であるアメリカ合衆国ユーリカ市に由来します。潮風に吹かれながら、海上から間近に見る石油タンク群や製鉄所、穀物サイロは圧巻。さらに、停泊中の巨大タンカーの横を航行するのも迫力満点です。(感染症対策のため、運行を休止しています。お出掛けの際は事前にご確認ください)



遊覧船ユーリカ号から見る工場群は迫力満点

## 楽しみ方いろいろ

帰り際に柴田さんが話してくれたのは、展望塔の池にまつわるお話。1年に3回、池の水を全部抜いて掃除をします。池にはたくさん金

魚がいて、冬場は塩ビ管の中に隠れています。暖かくなると池を泳ぎ回る姿が見られます。多い時はおそらく500匹近くいました」

いかにも港公園らしい、ちょっとしたほのぼのするエピソードです。

今回は港公園をすみずみまで探検し、四季を通して一年中楽しめること、鹿島灘と鹿島臨海工業地帯の景観を満喫できること、さらに鹿島開発の生きた歴史を体感できることが分かりました。訪れるたび、誰もが自分らしい楽しみ方を発見できそうです。

